

保護者の皆様

ソウル日本人学校長 高橋 重良

### 令和3年度 学校評価について

#### 1. 学校評価の目的について

学校評価は、学校教育法第42条・第49条（中学校）に「小学校（中学校）は、文部科学大臣の定めるところにより当該小（中）学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。」と定められ、毎年、子どもたちがより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すために行っています。

教育活動の実施にはPDC Aサイクルが重視されます。学校評価も同様に以下の図のように教育計画の立案：Pから次年度への改善と新たな目標設定：Aまでの手順で教育水準の向上を図っています。

本校では、12月に本校の学校教育の成果や課題について保護者の皆様に評価していただき、その評価結果に基づいて今後の教育活動の改善を図っています。



#### 2. 令和3年度学校評価アンケートの結果について

令和3年度の学校評価は、「学校経営・ソウル日本人学校の目指す姿」「学習指導・評価」「生徒指導・教育相談」「教育環境・危機管理・安全対策」、4つの観点からアンケート結果をまとめました。

下の表は、アンケートの回答の4：「とてもそう思う」、3：「そう思う」、2：「あまり思わない」、1：「全く思わない」の回答数の平均値を表しています。

【令和3年度 保護者アンケートの結果】					
	アンケート項目	保護者の評価			
		全校	中学部	小学部	幼稚部
学校経営・目指す姿	1 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	3.2	3.1	3.1	3.4
	2 学校は、海外にあっても、日本と同等の教育を行っている。	3.2	3.1	3.3	3.3
	3 学校は、子どもに挨拶の大切さを伝え、挨拶を実践する心を育てている。	3.3	3.3	3.3	3.5
	4 学校は、子どもの学びほうとする意欲や学力を伸ばしている。	3.3	3.2	3.4	3.4
	5 学校は、将来の生き方を考える機会を設けるなど、進路指導に取り組んでいる。	3.0	3.0	3.0	
	6 学校は、幼稚部・小学部・中学部併設の長所を生かしている。	3.4	3.3	3.4	3.5
	7 学校は、豊かな国際感覚を育む教育を行っている。	3.2	3.0	3.3	
学習指導・評価	8 学校は、楽しく、わかりやすい授業をしている。	3.3	3.1	3.5	3.4
	9 学校は、コンピュータに触れて親しむ機会を与えている。	3.2	3.2	3.3	
	10 学校は、豊かな心情を育む道徳教育を行っている。	3.3	3.2	3.3	3.3
	11 学校は、自主的な態度を育てる特別活動(学活・なかよし集会など)を行っている。	3.3	3.3	3.4	3.3
	12 学校は、意欲的に取り組める学校行事(遠足・校外学習・運動会など)を行っている。	3.1	3.1	2.9	3.1
	13 学校は、楽しい交流会を行っている。	3.2	3.1	3.1	3.5
	14 学校は、外国語(韓国語・英会話)の授業を通じて、言葉や文化に親しむ活動を行っている。	3.4	3.2	3.4	3.5
	15 学校は、健康・体力の向上を目指した教育を行っている。	3.1	2.9	3.2	3.3
	16 学校は、人権尊重を基盤とした教育を行っている。	3.2	3.2	3.1	
	17 学校は、通知表等で、子どもの学習や生活の様子をわかりやすく伝えている。	3.3	3.3	3.3	
生徒指導・教育相談	18 学校は、子どもの個性や気持ちを理解し、個に応じた指導を行っている。	3.2	3.1	3.2	3.3
	19 学校は、社会のマナーやルールを守る態度を育てている。	3.3	3.2	3.3	3.4
	20 学校は、いじめのない、安心して生活できる環境づくりに取り組んでいる。	3.3	3.2	3.2	3.5
教育環境	21 学校は、火災・不法者侵入・有事の場合を想定した避難訓練を適切に行っている。	3.3	3.3	3.2	3.4
	22 学校は、学校の施設・設備はよく整備され、有効に活用されている。	3.1	3.2	3.0	3.2
	23 学校は、事故防止に心がけ、適切な配慮をしている。	3.3	3.3	3.2	3.5

### 3. 各学部からの考察

#### 【幼稚部】

今年度の幼稚部「学校評価アンケート」では、6項目が3.5の高い評価をいただきました。

日頃より、幼稚部の教育活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

今年度保護者の皆様のご回答からは、「あいさつ」や「幼小中併設の長所」、「楽しい交流会」について高い評価をいただきました。「あいさつ」においては自分から進んであいさつができる幼児を目指し、話し合いをしたり、絵本や紙芝居などを通してあいさつの大切さを伝えたりしています。これからも自主的にあいさつができるよう実践する心を育てていきたいです。また「幼小中併設の長所」「楽しい交流会」では、年中組と小学部3年生との交流会、年長組と小学部1年生との交流会、中学部3年生の保育実習などソウル日本人学校ならではの異年齢交流の活動があり、その特色を大切にしております。これからもその貴重な活動を大切に、引き続きいろいろな経験ができるように活動を取り組んでいきます。

しかしながら、「楽しい園行事」「十分な施設と設備」ではこれから重点的に取り組んでいかなければならない課題とし、コロナ禍ということだけではなく、できることは前向きに考えていきたいと思えます。ただ、どの活動でも子どもたちの安心・安全を第一に考えながら子どもたちの成長のため、さまざまな活動や経験を重ね、より良い園生活ができるように努力していきたいと思えます。

#### 【小学部】

##### 【評価が高い項目】

8 楽しく分かりやすい授業（3. 5） 「学校は、楽しく分かりやすい授業をしている。」

##### 【評価が低い項目】

12 楽しい学校行事 「学校は、楽しく有意義な学校行事を行っている。」

23 十分な施設と・設備 「学校の施設・設備はよく整備され、有効に活用されている。」

保護者の皆様のご回答からは、「楽しく分かりやすい授業」について、高い評価をいただきました。今年度は昨年度に比べると、オンライン授業の数も減り、ほとんど対面授業によって学習指導を進めることが出来ました。子どもたちの普段の様子から、一人一人きめ細かく指導ができたことが高評価につながった大きな要因になったと考えます。学校に通い、友だちと交流を図りながら進める学習は「楽しい授業」という結果につながったと考えました。また、対面授業の良さである個別指導の実施により、分かりやすい授業につながったと分析しました。

昨年度から新学習指導要領が完全実施され、児童評価観点の変更（すべて3観点に）、「外国語」や「道徳」の教科化など、教育の場が大きく変わりました。本格実施の1年目がほぼオンライン授業だったこともあり、実質今年度が本格実施と言えました。ただ、日本国内とは違い、韓国国内での制約は厳しく、室内での活動では人数制限があったり、校外学習に出られなかったり、様々な交流でも制限が加わったりしました。そのため、教育活動の縮小を余儀なくされたこともありました。このことから、高評価とは言え、昨年度よりポイントを落とした要因の一つとして考えております。

また、韓国教育庁からの指導によるオンラインへの移行がいつも急で、子どもたちが戸惑ったり職員の準備も整わないうちに開始してしまうこともありました。このことから、いつオンライン授業になっても困らないように、今までのオンラインの経験も生かしながらかわてないような態勢づくりも重要と考えました。

オンラインだからこそ身に付いたものもあり、特に iPad については、確実に使用頻度が増し、技術がどんどん高まっていることも成果といえます。

コロナ禍の制約が厳しい中でも、より一層の工夫と努力で子どもたちのために分かりやすい楽しい授業にこれからも務めていきたいと考えています。

一方で「楽しい学校行事」については、大変低い評価となりました。これについては、児童アンケートは逆で高評価であったことからかなりのギャップがありました。

昨年度は中止だった、「運動会」「学習発表会」を実施しました。これについても、様々な制約があり、大変苦労しました。体育館での発表では、50人という人数制限に苦しみ、コロナ前なら簡単にできたことも

出来ないというものが出てきました。中学生は全体育館に入れず、2階のギャラリーを使ったり、一旦体育館から出たりという場面もありました。その都度中継するカメラやマイクも移動させなくてはならず、その移動する人数も気にしながら進めなくてはなりません。そんな中 Wi-Fi の調子によっては、うまく中継できず不具合が出ました。Zoom の限界を感じながらも、工夫をして2つの大きな行事を実施することが出来たことは今年度の大きな成果と考えております。

子どもたちは、昨年度できなかった行事を実際に体験できた「よろこび」や「実感」によって高評価につながり、Zoom による限界でなかなか画面上では実感できなかった保護者の方と大きなギャップが生まれてのではないかと考えています。

この反省を生かし、学校が置かれている制約をご説明し、人数制限の枠内で何人かの PTA の方や来賓から実際に観覧していただけるようなプログラムも考えていきたいと思っております。

また、Zoom の良さも生かして、後日動画を配信し、学年だより、学級だよりでのアピールもしていきたいと思っております。

「将来を考える機会」と「十分な施設・設備」についても低い評価でした。いつオンラインになるかわからない中、どうしても主要教科に偏りすぎていたことも確かで、なかなかキャリア教育の充実が図れたとは言えず、反省になりました。主要教科だけでなく、他教科特にキャリア教育にも力を入れられるようにバランスも考えていきます。時間割の組み方を工夫し、また家庭との連携を深められるよう最善の努力を重ねていきたいと思っております。設備については、特にプールに対するご意見が多く、評価の低さはこのことによるところが大きいと考えております。

## 【中学部】

### 7. 学校は、豊かな国際感覚を育む教育を行っている。(▲3. 0)

昨年度は、中学部の研究発表において、中学部全員を体育館に集め「持続可能な開発目標 (SDGs)」について学習するなど生徒の意識が高まりました。今年度も引き続きオンラインでユニセフの出前講座を行いました。各教科においても SDGs に関する話題を意識的に取り上げています。そのため、生徒のアンケート結果を見ると前年度と同じ 3.1 という値を示しています。昨年度の保護者アンケートとの値は 3.5 と高かったが、今年度大幅に低い値を示したのは、コロナ禍でもっとできるのではないかと保護者の期待からではないかと感じています。また、善一中やドワイトとの交流会がコロナ禍で中止となったことも原因の一つと考えられます。来年度に向け、SDGs の取組を含め、各種交流会をコロナ禍でもできる形で計画し、生徒の国際感覚を育んでいけるよう事前の準備をしっかりと行っていきたいです。

### 2. 学校は、海外にあっても、日本と同等の教育を行っている。(▲3. 1)

コロナ禍での6時間授業が続いてしまったり、オンライン授業となってしまったりして、水泳の授業ができなかったり、柔道の時間確保が少なかったりしました。7時間目に実施していたソウル太鼓や学部集会、委員会活動などを実施しようとしても教科の授業を振り替えて行います。このような9教科以外の生徒の活動も、生徒の成長にはとても重要だと考えています。今後も教科とのバランスを考えたり、中休み昼休みの活動など生徒の過重負担とならないように工夫をしたりして実施してまいります。

### 15. 学校は、健康・体力の向上を目指した教育を行っている。(▲2. 9)

昨年度はコロナ禍で体育の授業時数が標準時数の 47% と大幅に少なく、スポーツタイムは年間 4 回の実施であったが、今年度は 12 月現在で体育の授業時数が標準時数の 71%、スポーツタイムが 4 回の実施と昨年度と比較し、大幅に改善できています。しかし、日本からのメンテナンスの関係で、水泳の学習と水泳大会が実施できませんでした。コロナ禍での学校教育も 2 年目となり、もっとできるのではないかと期待の表れだと感じています。中休みや昼休みには、コロナ禍前よりも生徒が体育館に集まりバスケットボールやドッチボールを楽しんでいる姿が多く見られます。日常的に室内で過ごすことが多くなった生徒は、スポタ

イや体育、休み時間などに体を動かすことをとても楽しみにしていることが感じられます。来年度も可能な限りスポタイや体育の授業を実施し、休み時間の体育館の開放も行っていきたいです。また、学部通信や学級通信で中学部の取組や活動を丁寧に説明していく必要があると思っています。

#### 4.まとめ

##### (1) 学校経営・目指す子どもの姿

今年度も、コロナ禍で韓国政府やソウル教育庁からの感染拡大防止の措置により、計画や予定したことが急遽やむを得ず変更になったり、中止になったりすることがありました。学校の教育方針や運営計画を具体的に伝える機会や方法は、学校ホームページや保護者へ向けて発信する学校だより、各学年のたよりで行っています。これからも各種たよりで、子供たちの教育活動の様子、その教育活動の目的や育てたい内容、そして異学年交流の様子などを伝えていきます。また、オンライン授業時にはロイロノートを活用して情報や課題を発信することも今年度も行ってきました。

今後も、ウィズコロナの状況は続いていきます。学校の方針や計画を具体的にどのように早く正確に保護者の皆さんへ伝えるかということが非常に大切な課題です。保護者の皆様への確かな情報発信をしていけるよう努めてまいります。

##### (2) 学習指導・評価

昨年度導入できたタブレットは、オンライン授業時だけでなく教室でも一人一台やグループ学習で活用できています。また、各ご家庭の受信環境を整えていただいたおかげで、7月のオンライン授業に対応することができました。

ICT環境の整備や様々な技術導入は、子供たちのコンピュータリテラシーを育てています。調べ学習や発表資料作成などにも児童・生徒は自然な姿で取り組んでいます。Zoomを使用したオンライン授業では、Wi-Fi環境や送信技術、授業の構成の仕方や教材提示方法などの課題に対して、様々な取り組み・工夫・経験を積み重ねてきました、それらの課題を解決するために校内研修や情報共有を行っています。教室でもオンライン授業でも子供たちに質の高い授業を配信できるよう、教材研究と合わせてICT技術面の研修も進めてまいります。

行事での人数制限がある中、昨年度できなかった異学年交流や行事を工夫して行ってまいりました。このことには、児童・生徒は達成感や満足感のある評価をしていました。保護者の皆様には来校できなくても、これらの活動がご家庭に伝わる努力を続けます。

##### (3) 生徒指導・教育相談

寒い季節であっても、幼児・児童・生徒の休み時間に元気よく遊ぶ声や体育の授業で活発な様子が聞こえてきます。朝のあいさつから、下校バスの見送りまで、全職員が率先して行っております。あいさつについては、まだ十分でないところもありますが、幼児・児童・生徒が気持ちよく学校生活ができるように、元気よくあいさつができるように、教職員が進んで声掛けなどを継続してまいります。

今年度も「いじめアンケート」を実施し、その支援と事後指導については情報共有をしてまいりました。子供たち一人一人の個性を大事にしながら、担任だけでなく様々な教職員が関わり見守るようにしています。これからも子どもたちに寄り添い、指導・支援をしていく学校であるように体制づくりを進めていきます。

##### (4) 教育環境・安全対策

学校の防疫体制は、子供たちの毎朝の健康観察と検温から始まって、自力登校の送迎、バス乗り場でのバス当番や委員の皆さんのご支援など、保護者の皆様の大きな協力に支えられています。また、子供たちの安全のために、校内の防疫体制を強化し教職員が全員で取り組むことを確認したところです。学校における防疫対策については、来年度も年度始めに保護者の皆様にお知らせいたします。また、緊急時の連絡方法についても、システムの見直しを検討しています。緊急時や休日に担任まで連絡する方法も含め、あらためてお知らせいたします。

オンライン授業も2年目になります。さまざまな成果や課題があり、画面を通して子供たちの表情や様子、つぶやきや発言を的確に把握し、いかに授業展開をするかを研修してきました。Zoomの中でグループ討議をする場面、共有資料からコミュニケーションを展開するなど、試行錯誤の連続です。

いまだにコロナ終息への見通しが見えてきません。今後も学校と家庭が連携をとって、子供たちが安全な学校生活を送れるように、日々の学習を積み重ねることができるよう、教育活動を行ってまいります。